

アグアスだより

2015年11月号

ワニさんのおじぎ

かつて、小学校1年生の水泳の授業で、こんなエピソードがありました。最後まで水に顔がつけられなかった子が、浅いプールで「ワニさん歩き」をしていた時のことです。教師が「ワニさんがおじぎをしました」といったとたん、その子は、バツ！と水の中に顔を入れたのです。教師たちは「できたじゃない！」と大喜び。本人もまんざらでもない様子でした。ずっと「私はできなくてもいいの」と自ら宣言していた子ですから、周囲の感激もひとしおでした。何とも微笑ましい光景です。

学校ではこうした声かけをよくします。水泳の「伏し浮き」指導では、力を抜いて伏し浮きができるよう、よく「お化けになりましょう」といいます。お化けをイメージさせることで、水中で体の力を抜くコツをつかませるのです。私も小さい子どもたちを集めて騒がしい時、「アリさんの声で話しましょう」ということがあります。すると、子どもたちは急にゴソゴソゴソと、小さな声で話し出します。小さな子どもたちは、こうした声かけが大好きです。このような時、不思議なことに、子どもたちの顔がパッと輝き、知的な行動をするようになります。「静かに！」の繰り返しではそうはいきません。おそらく、そうした声かけには、子どもたちの知性に働きかける力があるのでしょう。

静かにさせたい時に「静かに」ではなく、「アリさんの声で」といいかえることに、どのような意味があるのでしょうか。ひとつは、

指示が子どもたちにイメージしやすくなります。ふたつは、指示がユーモアを交えた具体的な表現になります。子どもたちは、こうした話し手の機知に敏感に反応するのです。このような「いいかえ」は、学校だけではなく、家庭でも有効ではないでしょうか。たとえば、「部屋を整理しなさい」というよりも、「部屋のゴミを30個ひろいなさい」の方が、子どもはやる気を出します。そして、それができたら褒めるのです。褒められた子どもは、嬉しくなります。そこで、さらに「机の上のエンピツは筆箱に、本は本棚にしまいましょう」と続ければよいのです。この声かけに、一般的なきまりはありません。その時々の子どもの発達段階や場面の状況に応じて、大人が機転を利かせて考え出すのです。こうした声かけを工夫することは楽しいことですし、子どもたちは大人の働きかけで、しだいに知的にふるまい、かしこくなっていくように思えます。学校の教師は、ある意味、そうした言葉を考える専門家といってもよいでしょう。ですから、教師の指示の出し方は、家庭でも参考になると考えます。

いくつか例をあげてみましょう。キャンプ場で飯ごうを洗う時、洗い方が弱くて、いつまでたっても汚れが落ちません。その時、子どもに「もっとしっかり洗って！」と声をかけます。でも、この時、「ゴシゴシと音が聴こえてくるように洗ってね」といえば、子どもたちは作業の仕方がわかって、もっと力を入れて洗い出します。ノートをとるときは「もっと速く書こうね」というよりも、「鉛筆の先から煙が出るぐらいのスピードで書

こうね」というと、子どもたちは「エーッ！」と、笑いながらもスピードアップし始めます。気をつけの姿勢は「胸を張って背筋を伸ばして」よりも、「背中に針金を一本ピンと入れましょう」の方がよく伝わります。

こうした子どもに対する声かけを工夫することで、子どもは知的に育ちます。一方、同じ指示を何度も繰り返す、最後には「どうしてわかってくれないの？ わかってー！」と絶叫し、哀願する方法では（本校にはそういう方はいらっしゃいませんが）、子育ての効果も期待できないのではないのでしょうか。

「かしこい保護者」から「かしこい子ども」が育ち、「かしこい教師」から「かしこい教え子」が育まれる。これは古今東西、子育てや教育の変わらぬ真理ではないかと考えますが、いかがでしょうか。

（校長 大越邦生）

読書の推進

「読書って何のためにするの」と子どもに聞かれたら、大人はどんな解答をするのでしょうか。その定義はたくさんありますが、私は「心を育てるため」と答えるようにしています。

読書を通して、言葉だけでなく話の中から多くの心を学ぶこともできます。不幸な主人公を気遣うことで、人を思いやる心が育ちます。失敗して落ち込む主人公を励ますことで、同じように失敗して苦い思いをした自分の過去を吹き飛ばせる強い心が育ちます。本の中の主人公の姿に引き込まれ、思いを寄せることで、子どもたちは読書から多くのことを学び、読書の楽しさを知ります。

本校では、朝の読書や図書委員による「アグアスっ子 読書カード」の取組、保護者に

よる読み聞かせ等の推進活動を行っています。しかし、まだまだ自主的な読書習慣が身に付いているとは言えません。そこで今後は推進活動の第一歩として、「新しい学校図書の購入と学校図書館の整備」に努めたいと思います。読みたい本、学習に生かせる本を少しずつ整備することで、このアグアスでも、「近くに本がある」環境を作り、読書から得られる楽しさや喜びを子どもたちに届けられるようにしていきたいと思います。そのためには学校と家庭の連携がこれまで以上に重要です。ご家庭でも意図的に「読書の時間」を設けるなどして、家族で感じたことや考えたことを話し合い、読書に対する興味や関心を引き出すとともに、一味違うコミュニケーションを図ってみてはいかがでしょうか。

（国語科・図書担当 濱野 貴之）

11月行事予定

11月	2日(月)	死者の日(祝日)
	4日(水)	委員会、クラブ
	5日(木)	転入説明会
	6日(金)	学習発表会準備
	8日(日)	学習発表会
	9日(月)	8日の振休
	10日(火)	トランスポルテ支払い
	11日(水)	クラブ
	16日(月)	革命記念日(祝日)
	18日(水)	クラブ
	20日(金)	期末テスト(中)
	23日(月)	期末テスト(中)2日目、カレーの日
	25日(水)	クラブ
	27日(金)	ファイターズ、社会科見学(小5)、職業体験(中2)
	28日(土)	実力テスト(中3)、親子サッカー